令和4年度 第5回 知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【日時】令和5年2月2日(木)
午後1時 30 分～午後3時
【会場】川根本町文化会館 ホール

1 出席者

発言者：島田市・川根本町において様々な分野で活躍中の方　4名

2 発言意見

番号	分野	項　　目	頁
発言者1	農業振興	高品質な川根茶の増産、消費促進の取組と複合作物栽培の取組	3
発言者2	地域振興・人口減少対策	田舎生活の魅力発信の取組と過疎化進行による課題	5
発言者3	人口減少対策	場所を選ばない働き方による人口減少対策	10
発言者4	まちづくり	まちづくりの担い手不足解消と行政との良好な関係の築き方	12
傍聴者1	―	空港下駅建設の推進	19
傍聴者2	―	「発展から調和の時代」に合った静岡	21
傍聴者3	―	川根本町の人口減少の実態と危機感	22
傍聴者4	―	大井川鐵道の早期全線復旧	23

【川勝知事】皆様こんにちは。今日は、ぜひ来たいと思っておりましたこちらに参りまして、知事広聴ができることを、大変ありがたくうれしく思っておるところであります。

14 年前に来た時に比べて、川根は本当に変貌しましたね。良い方にです。そういう印象を持っております。今日はそのうちの一端などを聞けるんじゃないかと思っております。

この広聴というのはですね、私の話をするのではなくて、それぞれ川根本町と島田市から選ばれた優れた方々のお話を私どもがしっかりお聴きをすると。お聴きをしてですね、それを県政に役立てるという、そういう目的でございまして。これまで、年に5～6回やっておりまして、80 回近くやっております。

そしてこれはですね、聴きっぱなしで済ましたことは一度もありません。仮にご質問があった場合ですね、こちらで答えられるものは今こちらで答える。しかしながら、すぐお答えできないものは持ち帰りまして、必ずそれをお答えする形で、これまで 80 回近くやってきたものでございます。

特に私は今、この地域におきましては、人類の財産になりました南アルプス、これはもちろん国立公園であります。と同時に、ユネスコの、いわゆる Biosphere Reserves と言いますけれども、いわゆるエコパークになっておりますが、そこの水、あるいは自然環境が、ひょっとすると破壊されかねないということで、私も大変心配しておりますけれども、偶々昨年の6月に閣議決定で、静岡工区の水資源と南アルプスは保全をする。その前提でリニアを進めると。

それから自民党の、参議院の選挙でございますけれども、公約がですね、同じことが謳われました。

更にまた、リニア中央新幹線建設促進期成同盟会というのがありまして、私はその同盟会、7月に入った。その前月、6月ですけれども、その期成同盟会でも総会が6月に開かれまして、6つの決議をしたんですけれども、一番最初の決議がこの静岡工区の水資源と、それから自然環境を保全する。これを前提でリニアを進めると。劇的に6月に変わりました。

それは、川根本町あるいは島田の皆様方がですね、声を挙げられて、やっぱりここが大切であるというその声が意思決定者の一部に、まだ JR 東海さんはそういうふうには言っておられませんので、そういう流れの中でですね、ここは私は今、地球がこの環境悪化されかねない、人の新しい世、人新世、地質年代、人間の作り上げたものが地球の歴史を変えつつある、そういうですね、地質年代に入っておって、これをなんとか止めないと人類の生存が危ういというところまで来ているわけです。そういう中でですね、ここに住まわれてる方たちは、人類の共有財

産としてのユネスコエコパークを持っておりますので、まあそうした意味でもですね、皆様のお声をしっかりと受け止めまして、県政に反映させてまいりたい。

今日は、町長さん市長さんもお見えでございますので、聞いていただいて、それをそれぞれ町政また市政にも生かしていただけるのを期待しているところでございます。

1時間半の短い時間でございますけれども、何とぞよろしくお願い申し上げます。

【発言者１】皆さんこんにちは。皆さんは川根本町と言ったら何を思い浮かべるでしょう。川根茶と思い浮かべる方が多くおられると思います。

私は平成 19 年から川根本町の水川地区で水川製茶組合という所の組合長を務めています。15 年前に組合員の方々から組合を解散すると言われまして、その時に、続けてくれるようなら、組合を、組合長をやってくれないかということで、引き継ぐことにいたしました。その時に思ったのが、この全国で優秀な銘茶である川根茶を残したいっていう思いから、継いでいくことにいたしました。

先代の頃は自分たちが作ったお茶が一番旨いと自負していたのですが、作れば売れるっていう時代はもう過ぎ去ってしまっています。では、本当に良いお茶とはどんなお茶だろうと、改めて自分なりに考えて、茶商さんとお話をしながら、「渋すぎる」とか「水色をもっと青くしよう」とか「もっと細く撚る」とか、どんなお茶が欲しいのか意見をいただきながら、買い手のニーズにできるだけ応えられるように努力してきました。

今では、良いお茶とは、買ってくれる人が満足していただけるものが良いお茶だと思っております。その甲斐がありまして、今では茶商さんにもっと欲しいと言われるようになりました。

ですが、工場の規模が小さくて、生産者も高齢者で、当初 30 人いた生産者も毎年1人、2人と茶業を続けられずにやめてしまっております。なかなか生産量を伸ばすことができません。

そこで、継続できないという方から茶園を借りたり、荒廃農地再生事業を利用しまして、栽培面積を増やしていくことにしました。今では私の茶園面積は、当初の倍になっております。

また、2年前から、他の共同工場が解散した方々にお声を掛けさせていただきまして、同じ肥料を使っていただき、生葉の提供をしてもらうようにいたしました。

このようにして、少しずつでも荒廃農地を減らしながら、川根茶を守っていければと思い、継続していくように頑張っております。

こんな厳しい茶業の中であるんですけれども、生き残りを懸けて茶業を続けていくという方々もたくさんいらっしゃいます。今までこの地区にはなかった、抹茶の原料となる碾(てん)茶の生産

が、ここ数年で大きく伸びています。碾(てん)茶をやっている方々は、栽培ができなくなった荒廃農地の減少にも一役買ってくれています。私も少しではありますが、荒廃農地を利用して碾茶の生産を行っております。生葉代は一番茶の最後の価格とそれほど変わらないんですが、収穫量が普通煎茶の場合の2倍というようになっています。それ以上の場合もありますけれども。そうすると単純で計算しますと倍になります。直射日光が当たらないように被覆するなどの手間が掛かるんですけども、茶業を続けていくには必要だと思い、今年も増やしていこうと思っています。

そんな素晴らしい川根茶なんですが、都市部へ行ってみて川根茶と言っても知らない方が結構多くいらっしゃいます。年齢の高い方々の認知度は、結構知っているんですが、若い方々になると知らないという方の方が多いようです。話を聞いてみれば、家に急須がないという人もいるので、若い人、若い世代ではペットボトルがお茶の代名詞になっているようです。

そんな中、昨年9月に行われました「世界お茶まつり」に行った時に少し驚いたのは、来場されている方々の年齢層が、20 代から 40 代の若い方々が多く見受けられたことです。お茶に関係のない、お茶に触れることが、機会が少ない方々だと思いますが、ネット社会で、情報発信はもとより、もっと消費地に出向いて、実際にお茶を味わっていただいて、五感に訴えることが消費拡大への一歩ではないかと考えています。

そんな厳しい茶業を補うために、複合作物の栽培にも取り組んでおります。私はショウガを栽培しています。ショウガはお茶の栽培や収穫時期にかぶらず生産できるからです。作ってみてわかったんですが、平地で作られるものより、丸々としたようなものができます。川根本町の作物は、お茶と同様に地形や気候に恵まれ、他の産地と比べ甘みが多く、柔らかいと感じます。私のショウガも、口に入れた瞬間は口の中に甘みが広がって、後から辛みが強くなってきています。初めて食べた時に、ショウガってそんな甘いものなんてあるんだってびっくりしたほどです。それほど特別なことをしなくてもおいしいものが作れる、恵まれた土地です。地元で生活している人たちにはそれが当たり前のことなんですけども、その価値の重要性があまり認識されていません。川根本町産のブランドとして、もっと世に出ても不思議ではないとも思っております。

僕のショウガは JA まんさいかんへ出荷しているんですが、まずはお客さんに手に取ってもらわないと、買っていただけなければ、おいしさも分かってもらえないと思いますし、ちょっと工夫しました。他の出品者の方は、茎が付いた状態で出荷してるんですけども、それとは差別化を図るために、茎を取ってショウガだけにして、隙間の汚れもきれいに洗い落としまして、店頭で

購入いただいてすぐに、台所で使っていただけるようにということで、なるべくすぐ、負荷のないように使っていただけるようにしました。当初はビニール袋に入れていたんですけども、乾燥して干からびてしまったり、カビが生えてしまったりして、返品が多くありました。そこで試行錯誤を繰り返して、なるべく空気に触れないように、トレイのパックに入れるようにしたところ、劣化も返品も減りました。パック用のトレーに入れるんですけども、先ほども言いましたように、丸々としているので、そのパックになかなかうまく入らないものが数多く出ます。それら入らなかったショウガを使って、ショウガパウダーを作るようにいたしました。最初にきれいに洗って、スライスして、3日～5日間くらい天日干しをしてガリガリになったところで粉末にします。

ショウガは天日干しをするとショウガオールという物質が生の状態より 20 倍になるそうです。ショウガオールは血行促進や抗菌作用があって、体を芯から温めてくれるようです。ちょうどこの時期にはうってつけですよね。粉ショウガっていうのは、なかなかどうやって使ったらかわからない方もいらっしゃると思いますけれども、お味噌汁に入れたり、今の時期、鍋物に入れたり、焼酎なんかに入れて飲んでいただけると、とてもおいしいと思います。

これからの発展、展望としまして、年間を通じて、ショウガを出荷できればと考えています。ただ貯蔵が難しくて、いろんな方に聞いて何年か挑戦してみたんですけど、残念ながら一度も成功したことがないです。発泡スチロールにもみ殻を入れて、少し暖かい所に置くとか、1メートル 50 センチぐらいの穴を掘って、そこにショウガを貯蔵してみたりもしたんですけれども、全て失敗してしまいました。貯蔵さえうまくいけば、生産量を増やしてスーパーへの出荷もできるのではないかと思って、今年もまた違う挑戦をしてみたいと思っています。

川根本町産の農産物、JA まんさいかん 4 店舗と KADODE OOIGAWA で山育ちというシール、小さいですけども、山の絵と、貼ってあるシールがあるんですけども、それを目印にしてお買い求めいただけますので、ぜひお買い求めいただいて、堪能していただきたいと思います。

川根茶や川根本町産の農産物は、本当においしくて自慢できるものです。この会場に来ていらっしゃる方にも生産者の方がいらっしゃると思うんですけど、ぜひ自信を持って、もっと多くの農産物を世に送り出していけるように、皆さんと一緒にやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。御清聴ありがとうございました。

【発言者2】こんにちは。今日の知事広聴会に参加できたことを感謝したいです。

2005 年から私は笹間に住んでいます。2013 年に永住権を取得し、去年念願の日本国籍を得ました。現在、海洋資源分析官として国連食糧農業機関に勤めています。水産学の修士コースで、アメリカの 200 海里水域で操業する日本水産、ニッスイの母船でオブザーバーとして勤務しました。その時の経験から日本や日本文化に強く惹かれました。日本語を勉強して、文部科学省の奨学金を得て、静岡県の清水にある遠洋水産研究所に勤めるために、やっと日本へ来ました。その後、国連マグロ委員会、ドイツ、ニュージーランド、アメリカや日本政府等の契約職員として働いています。

インターネットのおかげで、どこからでも仕事ができると思って、笹間に家を買いました。静かな場所で集中しながら、田舎のコミュニティ、きれいな環境と、受け継がれている慣習を楽しんでいます。コロナがだんだん収束していて、出張が増えるでしょうが、秘境と思われている笹間は国際空港からそんなに遠くないと思います。

時間に余裕がある時、住んでる屋敷で懐かしい民泊、茶屋や、銭湯を営業しています。儲けるのが目的ではなく、地域を盛り上げて、田舎の生活の良さを紹介したいと思っています。

最近気がついたのですが、外国人の中で日本の古民家に深い興味がある人が多いです。でも応援しないと（そういう人は）買えないかもしれません。このままでは、田舎の過疎化を改善する方法をなくします。その上、買われなかった建物が放置されるのは、村の環境として好ましくない。老朽化した建物の処分・遮蔽を考える必要もあると思います。

少しずつ、民泊と茶屋として、田舎でビジネスの明かりを灯していきたいですが、最近は人手不足が問題になっています。年を取って退職した御近所さんが増えていて、その問題はますます深刻になるでしょう。都市に住んでる人は、田舎で働きたかったら交通費が負担になりますから、通いたくなさそうです。もし、田舎へ通うための補助金があれば、田舎の人手が増えると思います。

民泊と茶屋のお客さんが笹間へ来る前に、道路の状態が分かるようにするべきです。私もそういう情報をあらかじめ準備していますが、お客さんはいつどこから来るか分からないので説明しにくいです。政府のウェブサイトにもっと詳しい情報、例えば通行止め解除の見通しや英語版もあれば良いかと思います。

今まで村の人々は伝統的な助け合い制度、例えば家族、親戚に頼ってきました。しかし、私の村では新しい住民がかなり多いので、将来その人が含まれる、つまり助け合いをあげる、助け合いをもらう制度が必要になると思います。島田市社会福祉協議会が最近始めた、助け合い制度を作るプロジェクトを応援したいと思っています。

以上でございます。

【川勝知事】どうも発言者１さん、また発言者２さん、お話ありがとうございました。

発言者１さんは、お茶の名人なんですね。名人の話は傾聴に値しますね。何が傾聴に値するかというと、実はショウガがこの土地にはあるということを見つけて、かつ、それを粉ショウガにするといろいろな形で使えると。例えば焼酎に使える、あるいは味噌汁に入れられる。今、ショウガを始めてあとは貯蔵だけだとおっしゃってましたが、こういう工夫を、実はお茶についてずっとやってこられたという、そういう先人がずっといらして、そして今、発言者１さんがあって、ここはショウガも作れますよ、と。しかもショウガが酸っぱいのではなくて、甘いということをこの名人が発見したって言うんですね。舌の肥えた名人が発見した訳です。だから、いろんなものが作れる可能性も言われました。

静岡県は農産物が 339 品目あって、日本一の種類です。339 品目の農産物が作れる訳です。お茶はその中の最高級の農業芸術品、農芸品ですね。しかも川根本町、あるいは隣の島田、あるいは牧之原、あるいは菊川、あるいは掛川のですね、お茶は、その作り方が世界の人々にとって守るべきものだということで、世界農業遺産に指定されている訳です。実はすごい場所でお茶を作っておられて、だから一見、交通の便が悪いようですけれども、これは、ローマにございます、今発言者2さんが関係していらっしゃる FAO の、そこが認定した場所がここですから。世界的なんですね。ですから、どういうものが作られるかな、ということで。実はここに来る前にですね、大阪の人だとか、こちらの人もいましたけれども、県外の人が来て、ユズをこれから 10 年かけて作るんですって。ここユズが合うと言って。ただしオリーブを作るには少し寒いって言っておられました。ですからですね、そういうことをしている人もいる訳です。可能性はすごく高いなあ、というふうに思いまして。ですから、発言者１さんに次ぐですね、第二、第三の発言者１さんが出てくるといいなというふうに思いますが、発言者１さんは農業の先生としてですね、これからもいろいろと御教示いただきたいと思います。

それから、発言者2さんはですね、奨学金で日本に来られたということですが、要するにエリートですよね。そのエリートの発言者2さんが、こちらに来て研究をして、そして、日本の古民家あるいは日本の文化に魅かれて、そして島田にお越しになって、その古民家の中で気に入ったものをお買い求めになって、そして永住権を取得されて、なんと日本国籍をお取りになったということは、なんと素晴らしいことでしょうか。それはですね、島田というのが開かれたコミュニティ、開かれた街であるということを示しているんじゃないでしょうか。

実はですね。島田と牧之原の間に空港がある訳ですけれども、今、空港、国際線がコロナのために止まっていますけれども、まもなく、まず韓国からチャーター便が来て、それからまた定期便が復活する。ついこの間ですが、ベトナムからも来たいって言ってきました。そしてまた、香港の旅行会社の社長さんも富士山空港を見に行きたいと言ってこられました。

その空港がですね、笹間まで近いっておっしゃってるんですよ、発言者2さん。だけど、道路の表示がやっぱり外国人には分かりにくという。これはですね、今静岡県には、126 か国の外国の方々がお住まいなんです。ですから 126 の違う文化の方、違う言葉の方、違う宗教の方、違う肌の色の方が一緒に住まわれているんですよ。それで、なんとなく若い人たちが東京行くとかって言ってますけれども、実は外国から静岡県にお越しに、あるいは外国人として静岡県にお住まいになる方はですね、日本で8番目です。東京が1番ですが。あと、神奈川とか埼玉とかあの辺が2位、3位で、うちは8位で。

それでこちらに来られるとですね、差別を一切しない。ムスリムの方もクリスチャンの方も、そうでない方もですね、それぞれ違う食文化をお持ちですから、それを大切にし、かつ、お子さんがいらした場合は、なるべく早く日本語になじんで、なるべく優しい日本語を皆さん共通語で使えるようにしましょう。と同時に母国語を大切にしてください、母国の文化を大事にしてくださいという、そういうことでやってるわけです。

そういう中でですね、空港があるっていうのは、つまり自分の母国と、どこかで結びつきやすいということじゃないでしょうか。ですから私はですね、この4月に静岡市の市長が代わります。浜松の市長が代わります。ここは両方とも政令市で、県と同じ権限持ってる訳ですよ。ですからなるべくそこは新しい市長さんに委ねまして、残りの 35 市町あります、静岡県には。その2つの市町を除きますと、33 市町になりますね。33 市町のうち、20 市町が富士山の麓と伊豆半島にあって、そして遠い、浜松の西側に湖西というのがありますけれども、それ以外の所は全部この志太から中東遠にある訳ですね。ここに力を注ぎたい。富士山の麓と伊豆半島、そこと、この地域に広域的なことが我々の仕事ですから。力を注ぎたい、と思っております。

そして、交通について、確かに新東名がございますね。新東名から、金谷のインターからずっと空港の方に行って、御前崎まで、信号なしの道路を作りたいということで、全部で 30 ㎞あります。約 22 ㎞もうできてるんです。あと1、2年で残りの分ができますので、新東名から、金谷のインターから、ちょっと1号線を走りますけれども、その後ですね、倉沢と言ったかな、あそこからずっと御前崎まで行って、途中に空港があります。その空港の下には新幹線が走ってますね。そしてしばらく行くと東名があります。そして国際港の御前崎港があります。海に開かれ、

かつ新幹線が走り、高規格道路が走り、空港がある。それで景色が良くてですね、ここは農水省が「味の景勝地」に認定している訳です。「味の景勝地」というのはですね、味も、つまり料理も素晴らしい、かつですね、景色も素晴らしい。これはフランスっていう国が最初に始めまして、フランスは数百のそういう料理を味わう、かつ景色を味わう所が指定されて、それを真似して農水省が指定した。静岡県では浜名湖畔と大井川流域です。我々はつい最近それを知りました。ここが実は味の景勝地になっていると。おいしいものを、かつですね、きれいな景色の中で楽しめる所がある、ということなんですね。

そして同時にですね、ここであれば住めると。特に今、古民家が空いてるから。その情報を、もっと上手に外国人の方にも分かるようにして、ひょっとしたらそこに住んでくださる方が増えるかもしれないという、発言者2さんのお話なのでですね、これはものすごい励みになるんじゃないでしょうか。だから世界に開かれて、つまり差別をしない、来るものを拒まない、助力を惜しまない、そういう形のですね。実は私は、川根本町に最近外国の方がたくさん来られているということに気づきまして、それは、聴いてみるとですね、温かいからだと言うんですね。人々が外から来る人に対して温かいという。最高の褒め言葉じゃないでしょうかね。

それから川根茶、金谷のお茶、島田のお茶と、結構ありますけれども、今ですね、発言者１さんがおっしゃいましたように、消費者の好むものを出さないといけない。我々はこういう煎茶ですね、こうしたものに対して味覚を持っています。しかし海外の人たちはですね、むしろ抹茶なんですね。それで抹茶の日本最大の工場が、つい去年、川根本町にオープンしましたね。先ほど島田市長から伺ったんですけども、すでに島田にもそれなりに大きなものがあるそうでございますが。先ほどこの川根本町の「静岡オーガニック抹茶アライアンス」、その頭文字をとって「SOMA」というのが、文化伝承館のお隣にですね、文化伝承館が「時愛（ときあ）」ですね、あれが小さく見えるくらいばかでかいというふうに、ものすごいですね。あの美しい建物の工場の中を見せてもらいましたけど、年間 240 トン作ってるんですって。毎月 20 トンで、年間 240 トン作れる能力を持ってる。

ところが、川根だけで160トンしか提供できないそうです。だからあと80トン足りないわけです。もっとお茶を作ってくれって言ってます、社長さんが。ですからですね、海外にそれを輸出するために作ってるんですって。だから海外の人たちの嗜好はそういう所に向かっているんですね。それでお茶の葉っぱから全部これを砕いてですね、そして、正しくは有機栽培でないといけないというのが、今の海外の一つの基準になってますから、それをしてきっちり殺菌をして、最高級にレベルの高い農芸品をこの抹茶、あるいは碾茶にして輸出するということで、それが

もう稼働してるんですよ。ですからそれが、伝統の文化継承が、すぐ近くには徳山の盆踊りがあって、それがユネスコの今回また無形文化財になったじゃないですか。つまり世界的になってきている訳ですね。私はそういうものがこの大井川筋に出来てる、ということでですね。そして中流域の所に、素敵な女性の、国際的な仕事をされている、発言者2さんがいらして、そして今、外に向かって一方でSOMAというのが碾(てん)茶を作って輸出すると。一方でこちらでは、地元の農業の利点をよく知って、発言者１さんのような方が名人芸を、今皆さんの前で一部披露してくださった訳ですね。

ですからこれは将来は明るいなあと。（ステージの花を指して）このお花みたいですね。綺麗ですね。こういうおもてなし、これがですね、川根の心じゃないかというふうに思います。これ水の産物ですからね。水が光を浴びてこういう美しい花を作ってくれている、そういう地域だなというのはですね、おふたりの話を聞きながら、感想を持たせていただきました。

ありがとうございました。

【発言者3】皆さんこんにちは。改めまして、川根本町民の発言者３と申します。どうぞよろしくお願いします。

まず最初に、これだけは皆さんにぜひ覚えてほしいなっていうことをお話しします。

それは、いつも僕が考えていることって、めちゃめちゃ単純ですよってことです。わざわざそんなことを最初にお伝えするのには理由があります。僕が川根本町に来てから、いろんな方々とお話ししている中で、皆さんに「こいつちょっと複雑なことをやってそうやな」とか、「こいつ何かいつもすごいこと考えてそうやな」っていうふうに思われてるような気がしているからです。そういうふうに思ってる方々の、思いっていうか考えを訂正したいなあっていう意味を込めて、最初にお伝えしたいと思います。

じゃあ僕がいつも何考えてるんやって言うと、僕がいつも考えてることは、仕事で人の役に立って、目の前の人に感謝の気持ちを伝えて、お風呂に入ってゆっくり寝たいなって、ただそれだけのことを考えてます。今日これから僕、またいろいろしゃべるかもしれないですけど、皆さんにぜひこれだけ覚えて帰って欲しいです。

じゃあ続いて、自己紹介をしていきます。ここからは、僕が川根本町に来てから、皆さんによく聞かれるなっていう質問に回答するような形で進めていきます。

僕まず年齢なんですけど、1995 年生まれの 27 歳です。そろそろ大人としての自覚を持たなあかんなって思ってます。

次に、どっから来たん？ってよく聞かれるんですけど、生まれは三重県の鈴鹿市っていう所です。三重県の鈴鹿市という所で高校卒業まで育ててもらった後は、神戸に行ったり、カナダに住んでたり、横浜に行ったりと転々とした後、今現在はこの川根本町に住んでます。

次に、今まで何してたん？ってよく聞かれるんですけど、小学校から大学卒業までずっと野球やってました。本当に週6とか週7のペースで野球やっていたので、野球しかやってこなかったっていうのが、より正確な言い方かもしれません。

最後に、趣味は何？ってよく聞かれるんですけど、僕は読書と散歩が好きです。暇さえあったら、次何の本を読もうかなとか、次どこ歩こうかなと考えています。

そんな僕なんですけど、川根本町に来てから1年半が経ちました。本当に毎日、知事にもおっしゃってもらったんですけど、温かい人々に支えられながら生きてるなって実感しています。例えば、本好きの僕に本を貸してくれる方々。野菜を分けてくれる近隣の方々。あと、何度も本の取り寄せを、僕が何度も依頼してるんですけど、何度も何度もやってくれる、本館の図書館スタッフの方々。毎日行ってる温泉で、いつも笑顔で迎えてくれる温泉スタッフの方々。本当にいつもありがとうございます。

じゃあ僕は川根本町で何してるんやっていうと、僕は川根本町で、ゾーホージャパンっていう企業で働いています。いわゆる普通の会社員です。じゃあその、ゾーホージャパンはいったい何してるんやっていうと、僕らは人の役に立つ製品を販売してます。人の役に立つって言っても、それが商売ってもんやろって声が聞こえてきそうなので、どんな製品を売ってるかというのを2つほど紹介しますと、例えば、従業員同士の連絡が簡単になるような製品、いわゆる LINE のようなチャットツールを販売していたりします。または、企業内とか組織内にある大事な機械がちゃんと動いてるかなっていうのを監視してくれるような製品、こんな製品を販売しています。

じゃあ、そのゾーホージャパンが何で川根本町にオフィスを建てたかっていうと、これは本当にいろいろ理由があるんですけど、僕が一言でまとめるなら、川根本町と日本社会に貢献するためです。じゃあ、どうやって貢献するかっていう話なんですけど、これも本当にいろんな貢献の方法があるんですが、例えば、こういった地方に、都市部じゃなくて地方にオフィスを建てることで、都市への人口が集中することを緩和したり、川根本町にオフィスを建てて、川根本町で雇用を作ることで、川根本町の人口減少を抑えたり。あと最後に、ゾーホージャパンにこれはメリットがあることなんですけど、地方の人材を採用することで、人材の多様性を確保できるっていう一面もあったりします。

ここまで僕いろいろ喋ってきたんですけど、最後にもう一度だけお伝えしたいことがあって、それは、僕がいつも考えてることって、めちゃめちゃ単純ですよということです。僕がいつも考えてるのは、仕事で誰かの役に立って、身の回りの人に感謝の気持ちを伝えて、お風呂に入ってゆっくり寝たいな。それだけです。

あと、1つ川根本町の課題になるんですけど、ちょっと考えてるのは、これは発言者2さんにも、田舎の人手不足っていう議題で挙げてもらってたんですけど、川根本町の人口減少を抑えるのに、なんかできることないかなってのはぼんやり考えています。例えば、なんかできないかなっていうので、弊社の、ゾーホージャパンのような、場所を選ばない働き方ができる企業が来やすい仕組みがあったらいいなとか、あと最近では、企業だけじゃなくて、場所を選ばない働き方ができる個人の人がいると思うので、その人たちが来やすい制度や仕組みがあったらいいなあと思ってたりします。

あとぼんやり思ってたのが、僕もこっちに転勤する時に、ちょっと家探しが大変やったというか、独り身用のアパートやマンションていうのは、なかなか見つからなかったので、それがもっといっぱいあったらいいんじゃないかなって、考えたりしてました。

僕からは以上です。お願いします。

【発言者4】皆さんこんにちは。NPO シマシマの発言者4と申します。

スライドを使ってですね、自己紹介と活動の紹介をさせていただきたいと思います。スライドをご覧いただければと思います。

もともと僕は、愛知県名古屋市でウェブディレクターをやっておりました。ウェブサイトのデザインやったり、プログラムとか、ウェブサイトの構築をやってました。約6年ぐらい前に、地域おこし協力隊としてですね、島田市の伊久身という場所に移住してきました。地域おこし協力隊の任期が3年なんですけれども、その3年の間、地域おこし活動というのをやっておりました。その3年が終わった後も、NPO シマシマを立ち上げて、引き続きまちづくり活動をやっております。昨年の4月からはですね、島田市の集落支援員になって、地域活動のサポートをやっております。

活動の紹介をさせていただきます。自分がやってきた活動を分類すると、イベント系と、ワークショップ系と、中間支援系、3つぐらいに分類できましてですね、3つめの中間支援っていうのは、あんまり聞き慣れない方もいらっしゃるかもしれませんけども、地域活動をされている方と、

行政の中間に立って、地域活動がうまく行くように支援するというのが、中間支援という活動になります。そんなことをやっております。

具体的に少し紹介させていただきますと、例えばイベント系ですと、敬老を祝う会の手伝いをしたりしました。これは、年配の方の若かりし頃の写真を、かき集めて、スライドでそれをみんなで見て、懐かしむという企画をやりました。スライドを見ながら「若いねえ」とか「懐かしいねえ」なんて言いながら、ものすごく盛り上がりました。昔の写真を見せるというのは、イベントを盛り上げるのにすごく役立つので、お勧めです。

次（のスライド）に行って。これは公園でお話会というのをやったんですけど、シマシマのメンバーの子が、オープンスペーステクノロジーっていう対話の手法がありまして、それをやりたいということで開催しました。オープンスペーステクノロジーって何かというと、普通の会議とか会合で話す内容よりも、会議が終わった後の雑談の方が、より本音が出ていい話が聞けるっていうのがあって、その雑談をあえてできるような場を作って、テーマに沿って話をしようっていうのが、オープンスペーステクノロジーっていう話の手法なんですけど。それを島田の駅前の公園で、パンを買って、コーヒーを片手に、みんな公園に散らばって、いろんなテーマに沿って雑談をする、というのをやりました。

あとですね、お祭りを盛り上げるために、こどもお仕事体験っていうのをみんなで企画してやったりですね。「川根のぬっくいあかり展」っていうのがあるんですけど、これも主催ではなくて、これを盛り上げるために我々で参加させてもらって、スライドにあるような、テントの骨組みだけ立てて、それに紐でランプシェードを吊るして、夜、日が暮れるのを待って点灯すると、結構幻想的な世界を演出するというのをやって、イベントを盛り上げるということをやったりしました。これを見て、参加された方が、お祭りに来た方が「すごいきれい！」って言って写真撮ってくれたりして、やって良かったな、という感じです。次（のスライド）が、みんなでこうやって手作りで作ってイベントに参加してますよ、ということです。

次がですね、ワークショップも結構やることがあって、こんな感じで島田の良い所についてお話ししたり、テーマに沿ってこんな感じで話したりですね、これは高校生とやったワークショップなんですけども、「島田の 50 年後を考える」というワークショップです。これは実際に島田のホームページに載ったりしています。

次はですね、中間支援系のことを言いますと、今「島田がこうなったらいいな」という企画をやっておりまして、これは、島田の市民の方に率直に「島田がこうなったらいいな」を聞かせてくださいというのを募集して、それをウェブ上から投稿してもらうという企画です。

1回目は500件くらい集まって、2回目は800件くらい集まりました。それで、集まった「島田がこうなったらいいな」、例えば「公園ができるといいな」とか「道路がもっときれいになったらいいな」とか、いろんな意見が集まったんですけど、それを、行政に「じゃあこれやって」って言うんじゃなくてですね、自分たちの街は自分たちで作りましょうよ、というふうに呼び掛けて、この集まった800件の「島田がこうなったらいいな」という意見を自分たちで形にしませんか、というふうに呼び掛けてですね、そこで集まった方々と一緒に、実際に形にするという企画をやっております。

具体的に言うとですね、例えば、島田の良い所はもっといっぱいあるぞ、ということでウォーキングをやりまして、島田の良い所を巡って、自分たちで島田の良い所を見つけていくということをやりました。それを最終的にSNSで発信して、島田の良い所を知ってもらおうという取組をしました。写真を、これ実際にお茶屋さんにお話を聞きに行って、茶農家さんのお話と、あと経営者としてのお話を、みんなで聞いている様子です。

あとですね、他のチームで言うと、これは農家さんに協力してもらって、子供たちと一緒に果物の苗植え体験というのをやりました。農業の楽しさを子供に知ってもらうことで、将来農業に興味持ってもらったらいいな、というそういう思いでの企画です。ニワトリとかといっしょに遊んだりして、すごく楽しい時間を過ごせました。

次はですね、駄菓子での世代交流ってことなんですけど、駄菓子って老若男女問わず楽しめるんじゃないかっていうアイディアから始まったんですけど、公園で一日限定の駄菓子屋というのをオープンして、そこで駄菓子を使った交流というのをやりました。写真にあるように、やっぱり年配の方も子どもたちも一緒に楽しんで、いろんな交流ができた、という様子です。

次は「蓬莱橋の右岸MAPをつくろう」。島田に蓬莱橋という有名な橋があるんですけど、蓬莱橋って実は、渡った先の右岸にこそ見どころがあるんじゃないかっていう話が出まして、みんなで右岸にわたって、スマホを持って自分で散策して「こんな良い所もあるよ」っていう写真を撮って、それを持ち帰って、スライドにあるような感じで、みんなで右岸マップというのを作りました。大人も子供も参加して、楽しく散策したのを地図にして、これも最終的にSNSで発信して、右岸ってこんなに良い所があるよ、というのを情報発信しました。

この4つの活動、活動の内容も重要なんですけど、一番の狙いとしては、まちづくりにかかわってもらって、まちづくりってなんか楽しいなとか、まちづくりって気軽にやれるなっていう、まちづくりのプレイヤーを1人でも多く増やしたいっていうのが狙いで「島田がこうなったらいいな」という企画をやっております。

現在集落支援員として、地域活動のサポートをしています。具体的に何やってるかというと、地域の方々にヒアリングをしてまして、個別にアポを取って、どんなことで悩んでるかとか、どんな活動をしてるかというのを聞いて、そこで見つけた課題をみんなに共有して、自分たちでこの課題を解決するために何に取り組めるかというのを話すためのワークショップをやったりとか、そういうことをやってますね。（次のスライド）これも集落支援の活動なんですけど、生活支援をつなぐ会という会をみんなで立ち上げて、ちょっとこれは福祉寄りの活動なんですけど、ゴミ出しとか、買い物にお年寄りを連れていくとか、そういったことができないか、ということを話し合うことをやっています。

活動の紹介は以上なんですけども、今日、2点ほど知事と、時間があれば皆さんとも、このテーマについて話せればと思っているんですけど。

１つ目は、これですね。担い手不足を解消するにはどうしたらいいか。これをテーマとして話せればいいなと思いました。

2つ目は、行政と良い関係を作るには？というところですね、この辺のお話ができたらな、と思います。

１つ目の「担い手不足を解消するには」というところなんですけど、僕が地域を回っていて気が付いたことがあります。それは、この担い手不足ということですね。これってどこ行っても聞こえてくるんですよ。どこの団体行ってもやっぱり「担い手がいなくてね」とか、「やってくれる人がいなくなっちゃってね」とか、そういう話が、どこに行っても聞こえてくると。なんですけど、よくよく話を聞いていくと、ボランティアで手伝ってくれる人って割と多いなという印象なんですよ。例えば、駐車場係くらいならやってもいいよとか、草取りくらいならやってもいいよとか、当日手伝いに行くよみたいな、そういうお手伝いしてくれる人は、意外と多いなという印象で。

じゃあ、何が足りないかって言うと、キーマンと呼ばれる人が少ないんじゃないかというふうに思っておりまして、キーマンというか、中心人物ですね、リーダーと言ってもいいかもしれないんですけど。いろんな責任をもって書類を作ったりとか、あとみんなに呼び掛けたりとか、会合の日程決めたりとか。そういう中心人物になる人が少ないなという印象なんですね。

この担い手不足っていうのはつまり、キーマン不足っていうのを指すんじゃないかというふうに僕は思っていて、このキーマン不足を解消するために何ができるかというのを考えたんですけど、大きく分けて2つかなというところで僕は考えていて、１つは単純にキーマンとなり得る人を探すっていう行為ですね。キーマンとなり得る人を一生懸命探して、人材を教育して、育ててということをやっていった方がいいのか、もしくは2つ目の、もう割り切ってキーマンが負担と

思っていることを代行していくっていうことも、もしかしたらあるのかなと思っていて。例えば企画書を作ったりとか、役所に提出する補助金の資料を作ったりとか、そういうことがしんどい、という方が多いので、だったらもう、そこは効率良く業務として割り切ってやっていくということが必要なのかなというふうに思ったりして。

どうもキーマンが足りないって考えた時に、キーマンを探すってところに力を入れた方がいいのか、もしくは代行、例えばもしかしたらAIが代行するかもしれないとか、そっちに力を入れてった方がいいのかとか、自分でも答えがなかなか出てなくてですね、皆さんどう思うかな、というところをお話ししたいと思っております。ごめんなさい、長くなっちゃって申し訳ないですけど。

2つ目は行政と良い関係を作るにはどうしたらいいかというのも自分の中で課題にあって、まちづくりをする上で、行政の協力というのは、もう絶対欠かせないと思うんですね。行政というのは、本当にまちづくりに特化した機関であって、まちづくり専門の機関。そこ無しで自力でやるというのは現実的じゃないと思っていて。なので、行政といかに協力してやっていくかというのは、まちづくりにおいては大切かなと思っているんですけども。

実際にいろんな地域を回っていくと、圧力をかけて役所を動かそうとする人って結構いるんですよね。「これは役所がやるべきだ」とか、「何でこれ役所はやってくれないんだ」とか。人によっては、担当者の所に行って怒鳴り込んだりして。そういう、強く言って動かそうとする人が結構多くてですね。そうすると、やっぱり担当者も人間なので、なんか嫌だなって思う訳ですよ。できれば関わりたくないな、みたいなところが人間なのでどうしても生まれちゃって。表向きは言わないですけどね。どうしても担当者の熱量がどんどん下がっていって、その結果、案件の破綻みたいなところにつながっていくことが多いんじゃないかと思っていて。

こういった方々に、行政と協力してやることはすごい大事なんで、良い関係を作りましょう、と言っても、なかなか通じなかったりするんですね。「いや役所がやるべきだ」と。「俺たちは悪くない」みたいな。そういう方々に対して、どうやって行政と良い関係を作っていく方法が、何かないかなというところで、知事と皆さんに何かアドバイスをいただければと思いまして、今日はこのテーマを選ばせていただきました。

すみません、長くなりまして。僕からは以上でございます。ありがとうございました。

【川勝知事】発言者3さんと発言者４さん、両方とも川根本町のお生まれではなく、いや、静岡県の御出身ではなく、おひとりは三重県、おひとりは愛知県ですか、名古屋の御出身。そういう人がここにいるというのは、まず良いですね。

そしてゾーホーですけれども、一番最初こちらに支店ができた時は、元の駐在所でしたよね？駐在所が空いてたのはどうしてでしょうか。おそらく、犯罪がないから、交番がいらないんじゃないですか？っていうぐらい、人々の信頼がある所だというふうに思いますけれども。社長が来たんですよ、CEOの。彼がインドの方で、インドもデリーのように北の方からデカン高原という南の方まである訳ですけど、南の方の東側、昔マドラスという、今何て言うんでしたっけ？チェンナイという、新しい名前なんですけど、そこの御出身で、大秀才で、アメリカのシリコンバレーに行って大成功を収められて、そして故郷に帰ってきて会社を興して、大学までお作りになって。そこは、今12,000人ぐらい社員がいらっしゃるんですよ。年間120人ぐらいしか採らないんですよ。応募する人は１万人ぐらいいるんです。そこの社員になるっていうのは、無茶苦茶秀才なんですよね。インドの秀才っていうのは無茶苦茶秀才なんですけども。

そういう会社のトップが、日本を旅して、川根本町に来て、ここは天国のような所だ、と思われたそうです。そこでここに、横浜にあったブランチではなく、こちらに支店を設けたいということで、空いてる所はないかって言って、駐在所になった訳ですね。そこはもう発展をして、今はもう、前の町長さんの旅館がゾーホーの会社になってる訳ですよ。発展してそこに、最近できた訳ですけど。インドの方が、若い方が4～5人いらっしゃって、日本人と一緒に仕事をされてましたね。入った途端に、良いカレーの匂いがして、食べたいなあと思ったぐらいです。だから、本物のカレーをインドの方が作ってらっしゃるんですね。

ともあれ、そのきっかけはトップがここを気に入ったということです。そして、川根高校の方に対しても、留学してもいいよと言ってくださったんです。それで実際に行って、向こうに行って、こちらに戻って社員として就職された方がいました。秀才なんですね、きっと。つまり英語と数学ができないと、この仕事ができないそうです。ともあれ、コンピュータもいじらないといけないので。そういう人が川根高校から出たということですね。

そして今川根高校で、発言者3さんがそうした手ほどきを高校生に教えてくださっているということでございまして。こういう方ですと、怖い先生というよりも、頼りになるお兄ちゃんという感じで、俺はいつも野球やってるんだっていう感じで、関西弁でやってくれるから、気楽じゃないですか。そういう人だと、あまり気難しくなくいろんなことが聞けるんじゃないかということで、ぜひ頼りになるお兄ちゃんになっていただきたいなあと思ってるんですが。

彼の希望は、人の役に立って、そして感謝をしながら、温泉に入って、ゆっくり寝ることだっていう。これは人生の幸せですよね。ただ、それをここで味わえるということですから。まあ、そういう意味ではここは、なるほどゾーホーの元々の社長さんが言われたように、パラダイスなのかもしれませんね。それを実践してるっていうことで。

それで今度は発言者4さんですけど、最初の方は、要するに楽しさを売ってるという感じじゃないですか？「ぬっくいあかり展」ですか（発言者4：主催ではないんですけど）、そういうことをやったり、一日駄菓子店やったり、果物の苗を植えたりね。どれも楽しいじゃないですか。昔の写真を一緒に見たりして。幸福を生むという、そういうことを地域おこし隊の経験に根差して、自らがシマシマというのを作って、やってらっしゃるという。まことに結構な人が来たと。

しかし最後の方は厳しい話でしたね。キーパーソンというか、キーマンがやっぱり必要なんだと。通常そのために我々は代議士を選んで、町議会あるいは市議会で地域のために働いてもらっている訳ですが、そういう専門職ではなくて、もうちょっと地域に根差した所で、この人たちの声を直に行政にお伝えして、そして地域のために、地域のために動くのが行政ですから、いわゆる議員の先生とは違う形で、こういう若い青年たちが、次の夢のある島田を作るためにこういうことをしなくちゃいけませんと。一方で書類なんか作るのに、行政がやるようなことをこちらがやるとかですね、そういうキーパーソン、キーマンが必要だと。それは作ったらいいのか、代行したらいいのか。彼は代行してますから。（発言者4さんに）ですから代行してください。

やってくれてる訳ですよ。彼がキーパーソン、キーマンですよね。キーマンっていうのは、20人いて1人くらいしかいません。そう簡単になれるもんじゃありません。ですからそういう人が、しかし必ずいるんです。世話好きで頭が良くて、そして地域を愛してる、人々を愛してるという人が、必ずいます。それでありがたいことに、発言者4さんはこの島田というか地域をお好きになって、何とか島田を良くしたいと思ってくださってるので、第二、第三の発言者4さんがきっと出てくると思いますね。なぜかというと、そういう島田だからです。ここ面白い、夢が実現できる、と思っていらっしゃる訳ですから。

ですから今までのような、市長さんあるいは町長さんと議会だけでなくて、もう少し、コミュニティの力を外から、外の目で見て、そこに埋ずまっている宝物を掘り出して、それを新しい、次の世代につないでいくというようなですね、そういう、ちょっとうまく表現できませんけども、外から見ると、ことっても面白くていろいろできますよという、そういう人の目はですね、必ずしも地域の中では、自分の目は自分で見えない訳ですね。自分で見えないので、外の目で見

るとそれが見えたりする訳ですね。それでそう言ってくださっている訳ですから、大変ありがたいと。

地域おこし隊は、ぜひ川根本町さんも島田市さんもさらに続けていただいて、ここを好きになっていただいて、そしてそれが仕事になればさらに良いですね。そういう仕組みはこれから作っていかなくちゃいけないと思いますが。

とりあえず、こういう外の人が来られると、まったく違う世界ができてくると。

昨日、抜里という所に行きました。かなり高齢の方たちがいらっしゃるんですが、民家が「抜里ハウス」ということで開放されまして、若い芸術家たちが来てる訳ですね。赤い旗を立てたり、無人の駅にマリア様みたいな抽象的な作品がありまして、それをあちこち出前してる訳ですよ。そういうことを横浜から来てやって。そうすると例えば赤い旗が立ってると、普通の山だと思うとそこに赤い旗が立っているので、なんだろうと思っていると、そこの景色が全然違って見えてくるんですね。つまりきれいに見えてくるんですよ。今まで自分たちが気づかなかった風景が、まったく、ちょっとリボンを髪につけると一瞬にしてイメージが変わるじゃないですか、アクセサリーを１つつけるだけで全然イメージが変わってくるでしょう？そういうアクセントみたいな、あるいはアクセサリーみたいなものをつけることのできる若い人たちが来て、ここの風景すごいよ、ということで気に入っている訳です。その人たちもやっぱり外の目ですよね。

偶々、この川根筋というか大井川筋というのは、若い人たちに対して開かれているというか、優しいというか、そういう文化があるんでしょうね。これが今、そろそろ芽を出し始めてるなという感想を、強くした次第でございます。

ですから、発言者３さんは良い兄貴として、特に発言者４さんは有能な地域おこし隊として、島田に根付いてくださっているみたいなので、さらに代行役を本格的にしていただいて、頼りになるお兄ちゃんというか、両方とも使えるお兄ちゃん、よろしくお願いします。

【傍聴者１】私は島田市本通に在住の傍聴者１と申します。

皆さん、もしかしたら蓬莱橋でお会いしたことがあるかもしれません。蓬莱橋へ時々行って家族連れの写真を撮ったりしてるんですけど。3年前から、このかばんを背負って（蓬莱橋に）いるもんですから、街を歩いていても「お前この前あそこにいたな」と言ってくれるんです。

今市長は帰ってしまいましたが、この前何かの催しがあった時に、市長にこのパンフレットを、今（知事にも）お持ちしますけど、渡した時に言ったんです。「あなた何してるの？」って言うから、

「年金泥棒だ」って。もう 75（歳）になりましたので、年金泥棒だと。給料もらってると泥棒になっちゃうということですから。そんなことをしています。

リニアの話はあれなんですけど、空港下に駅を作るということを全力でやっていただきたいなと思うんです。これは私が百貨店にいた時に、金沢、長崎、高知の人から言われたんです、静岡の人はずるいって。何がずるいんだって聞いたら、毎日富士山見てるって言うんです。確かにそう言われればそうだと。我々は頓着なく見てるんですけど、遠くから来た人は、こんなに良い富士山を見ていてずるいじゃないか、同じことを言われたんですね。大の大人で子供じゃないんですけどね。そういうこともありました。だからぜひ、空港下に駅を作ってほしい。これが 1 つですね。

もう 1 つ、ちょっと角度が違うんですけど、今国会議員が 736 だったかな？みえるんですけど、人数を半分ぐらいに減らす。それと市町村の議員を同じように半分ぐらいに減らすと、かなりの予算が減る訳ですね。例えば衆議院は、人口各 50 万に対して 1 人、そうしてやっていくと、長くなってすみません、鳥取が2人、一番下で 47 万人、東京都が 1,460 万人くらいで 29 人、これは、大体 1 つの範囲です。参議院は各 1 人、500 万以上の所は2人、東京都は3人ってやると、大体 50％くらい、半分ぐらいで良いんですよ。だから、そういうふうに変えてほしいなって思っております。

次の方にお譲りします。

【川勝知事】まず、国会議員の件については、国会議員や市町村の議員の方々が、お金をもらっている割に十分仕事をやってないじゃないか、という気持ちの表れじゃないかと思いますので、襟を正さなくちゃいけないなと思いますね。

それから空港の真下に新幹線が走っているので、駅が作れないかということで。私は、駅が作れるかどうかの技術的な調査を終えております。できるということです。もし作るとすれば、熱海のように通過待ちをできないような駅にするか、それとも、静岡とか掛川のような通過待ちができる駅にした方が良いか。どちらが皆さん良いですか？熱海方式が良いと思う人、手を挙げてください。じゃあ通過待ちができた方が良いと思う人、手を挙げてください。通過待ちができた方が良いっていう人の方が多いようですね。ですから、通過待ちができるように駅が作れるかどうか調査しました。空港ですから、ひょっとしたら VIP が来るかもしれない。国王とかですね。そういう立派な人が来た時に、待ち合えた方が良いでしょう？ですからやっぱり、待ち合

える方が良いなと思って、それができるかどうか、技術的にできるかどうかは、もう（調査を）終えております。

ただ、すぐに駅を作れるかどうかというのは、あそこも牧之原台地の上ですから、大井川の水ですべての、トイレも食堂も、生活も維持されているので、まずは、リニアの問題が解決しないことには、その話を具体化できないという、そういう状況です。リニアの話が具体化できて、南アルプスが守られると、水が必ず保全できるということになれば、そういう話が具体的にできるということですね。ですから、そういう方向で進んでいるということであります。差し当たって以上です。

【傍聴者2】ありがとうございます。私は藤枝出身で、18（歳）から東京とか横浜に住みまして、一度イギリスに行き、そのあと長らく、最近まで東京に住んできました。現在 30 代半ばなんですけど、やっぱり静岡が気になって、今東京と、藤枝と、川根本町とを行き来しながら生活してます。

私の中では、東京っていう目線で長らく暮らしてきたんですけど、東京はまだまだ発展ばかりを目指していて、もう発展は行きつく所まで行ったんじゃないかと個人的には思っています。発展して、ビルを建てて、そこからもっともっとっていう意識が東京は強いんですけど、私の中で、発展から調和の時代が来てるんじゃないかと思い、静岡っていうのは、いつも何をとっても真ん中でもあるし、バランスが良いなと思って、それで、個人的に静岡を見直しながら、今は行き来してるんですけども。

1970 年の万博の時に岡本太郎さんが「人類の進歩と調和」というテーマを掲げて、それから日本人、私たちは、エネルギーを注いで頑張ってきたんですけれども、そこから、その当時に問題視されていた、調和というところとかバランスっていうのが、今ちょっと、東京基準の価値だと抜け落ちてるんじゃないかな、と個人的には思っていて、静岡の県知事さんのこういったお話会であったり、こういう静岡県のお茶を囲む文化っていうのが、実は当たり前のように行われているようでも、お茶を囲めるっていうこと自体でもうすでに小さい平和があって、そこから少しずつ規模が広がっていったら、世の中は優しく、明るく、希望のある未来になっていくんじゃないかと考えています。

なので、個人的にこれから何をしようかな、ということでもあるんですが、こういった静岡の、東京より進んでる、個人的な意見かもわかりませんが、そういったところを表立って、もっとも

っと広がって、ちょっと沈みかけてる気持ちの日本人に希望を与えられる静岡県であり続けてほしいと思っています。

【傍聴者3】この近くに住んでいます、傍聴者３と言います。私はずっとこの川根本町で育って、学生の時だけ他へ出ています。場所はですね、静岡、浜松、それと所沢、南足柄市、開成町。ずっと研究畑で、研究所にずっといて、世界と戦ってきました。定年後は生命科学を勉強したくて、所沢キャンパスの方で大学院まで修了して、ドクターをやろうと思ったら目が悪くなりまして、ドクターまで行くことができないで、博士課程の前期で修了しました。そんな訳で、いろんな街を見てきました。

この街に欠け…、その前にですね、ここにいらっしゃる方々、県外の方、外国の方、いろいろご尽力されていて、感謝いたします。どうもいろいろありがとうございます。（今日）私がここに来たのは、今年1月1日の川根本町の役場のホームページから見て、人口が 6,000 人ぎりぎりなんですね。60 歳以上の方が 50％を超えてます、この町は。そして年齢別に見ますと、5歳までは 20 人以下なんですよ。1歳から5歳までの子供が 20 人以下なんですよ。そして一番人数が多いのは、74 歳の、いわゆる____予備軍の方で、150 人くらいいらっしゃるんです。その他がみんな少ないんですよ。このままいきますと、私がこの町へ戻ってきた時 60 歳だったんですけど、少子高齢化が進んで、ある一部ではみんな心配だってやってたんです。それからもう 10 年以上が経ちました。そしていろいろな施策があったかどうかわかりませんけど、現状は皆さんの努力はいろいろあるんですけど、実態はものすごい悲しいものなんですよ。この町の存続っていう所まで行きついてるんじゃないかと思います。例えば、１年間に 20 人しかなかったら、10 歳までは 200 人ですよ。それを考えると、人口が 1,000 人、そういう時代がもう近くに来てるんですよ。

そしてこういう時に、今皆さんの話を聞いてみて、ご尽力されてるんですけど、論理的にこれから先のことを考えているか、そしてもう１つは、ダイナミズムにやれるか、ということなんですよ。それが感じられないんです。

だからこの問題は非常に大きな問題で、ここの町が生き延びられるかどうか、この町としてやっていけるかどうか、静岡市に吸収されても僕は良いと思うんですけど。町として成り立たないんですよ。

それだけ切実な問題があって、今バラ色の姿を描いてましたけども、それはどちらかって言うと、極端な言い方すると、非常に知事には申し訳ないんですけど、小さいんですよ。もっとダイ

ナミックに、行政と住民と、または外の力を一緒になってやってかないと、僕はこの町はもう滅ぶと思うんですよ。

もう 10 年前に私は感じて、いろんな方と話したんですけど、それが 10 年経って、今もっとひどくなってます。この実態を皆さん理解してやっていかないと、もうどうにもならないと思うんですけど。私は今すごく危機感を感じてます。以上です。

【傍聴者4】すみません、ありがとうございます。お時間もないのに申し訳ありません。失礼します。 私は傍聴者４と言いまして、78 歳、今まで発言された方よりかなり年寄りでございまして、この町の後期高齢者の1人でございます。

まず初めに、本日は県知事をはじめ各関係者の方々に、この広聴会を見させていただいて、ありがとうございます。ちょっと口早に申します、時間がありませんので。あと、昨年9月の台風災害の時には、県知事はじめ、リーダーシップのもと、いち早く災害復旧にご尽力いただき、一町民として、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、私はこれから県知事にお伺いさせていただきます。とは言え、お願いさせていただきますことは、昨年9月の台風災害によります大井川鐵道の土砂災害、そして、線路陥没等による列車運休への対応、運転再開の今後の見通しなどはいかがなものかと思っております。その点をお伺いさせていただくことでよろしくお願いいたします。

しかしながら、もう時間がありませんので、お願いだけさせていただきますので、ご返答はまた後日でも結構でございます。

ややもすると平穏な生活の中で、蛇口をひねれば水は出る、それが当たり前だと感じてしまい、神経麻痺になりがちですが、先日、この冬寒波襲来で、石川県では5万の家庭で凍結による水道断水が続いたそうです。明日の我が身かもしれません。昨年多大な被害を被った本町の台風災害、水道断水もありました。また、生活道路としております福用地内の土砂崩れ現場、まだまだ復旧には時間がかかる様子でございます。

私がこの場でお願い申し上げますのは、大井川鐵道の全線復旧、開通の件でございます。台風災害の被害による運休から、早4か月が過ぎてしまいました。しかしながら、いまだに電車は金谷から家山までの運行のみ。そして家山から千頭までは鉄道は不通となっております。

確かに何年か前までは、住民の足として鉄道は通勤・通学に利用され、にぎわっておりました。が、昨今は、車社会となり、人口も減少し、乗客数も減り、鉄道運用も大変だろうとは承知しております。しかしながら鉄道の役目というものは、先日岳南鉄道社長・橘田昭氏が静岡新

聞のインタビューの中で、「今まで鉄道が地域に支えられてきたからこそ、これからは地域の課題を解決する側に回り、にぎわい創出などに取り組む。と同時に利用者を伸ばし、強靭化を生み出すことが最近の課題だ。」「鉄道は経済的な効果以外にも、記憶の奥底にある、原風景とも言えるまちづくりの重要な要素で財産だと信じている。」と語っておられます。

私もこの奥大井に関わる全てのものが、限りないこの大井川流域の、いえ静岡県全体の財産だと思っております。全部自然環境の中に恵まれた動く博物館、なぜなら先ほどからお話に出ていましたように、日本全国から、また世界から、飛行機でこの静岡空港に。また新幹線で東から西から都会から静岡に。そして東海道本線に乗り換え金谷駅に。それからは、タイムリセットした SL トーマス号に乗り千頭駅へ。またまたアプト式鉄道に乗り換え、大井川渓谷を見ながら井川へ、南アルプスへと、夢は広がります。

今朝ほど、教育旅行の量拡大に向けた取り組みを強化しているという記事を目にしました。ぜひとも今後、県内の学生さんが県外にだけでなく、県外の学生さんが静岡に、そしてまた、生きた交通博物館とも言える、この大井川流域においでいただけるようにしていただきたいと思っております。

お時間がありませんので、この書類、いや、お願いを文書でお送りさせていただきます。どうも失礼しました。申し訳ありません。

【川勝知事】それじゃあ、ちょっと時間過ぎましたけれど、この後の予定のある方はどうぞご退出くださいませ。ただせっかく3人の方から御意見を賜りましたので。

藤枝からも来ていただいて、ありがとうございました。東京よりもむしろ、静岡、この地域の方がですね、調和っていう、幸せな生き方をするには向いているんじゃないかっていう。賛成ですね。

そしてまた、傍聴者3さんですか。東京はですね、合計特殊出生率は日本で一番低いんですね。蟻地獄みたいなものです。そこに行ったら1人しか子供を育てられない、ということで、人口減少に拍車をかけていると。そこから今、脱出が始まっておりまして、それで地域の中で、静岡県が移住希望地 1 位です、連続。上位に山梨県、長野県。こういう自然がきれいな所に移りたいという人が増えてますから。危機意識はもう、データのとおりでありますけれども、一方で、先ほどの傍聴者4さんみたいな元気な方もいらっしゃいますから。若い者のために、老人の方たちも頑張っていただきたいというふうには思っております。

それから大井川鐵道、そうですね、家山から千頭までですね、ようやく大井川鐵道の社長さんの方から県に要望がございまして。即、受けまして。御要望の向きは検討会を立ち上げてほしいと。私は検討会は立ち上げますけども、千頭から井川までは、井川線は中部電力が経営している訳ですね。中部電力はさらに、畑薙ダムも持ってる訳です。そこはもう堆砂がたまり、かつ流木がいっぱいでですね。一方、ずっと下流まで行きますと、金谷からさらに下流に行くと、御前崎という所があります。そこには、火力発電所がこの8月に出来ると。それはチップで、すみません、バイオマス発電です。チップは静岡県6万㎥しか出してないんですが、すると 70 万㎥海外から輸入するんですって。10 倍以上輸入するんですって。ですから、例えばチップをこちらで作って、千頭から人ではなくて物流で運び、金谷まで持って行って、金谷からは残念ながらトラックになるかもしれませんが。そうすると、御前崎でバイオマス発電の原料を提供することもできます。

そういうふうにして、ただ、大井川鐵道株式会社だけではあれはできないと。今、1 つ会社の名前を挙げましたけども、そこはできる財政力を持ってますね。そこに入っていただこうという形で。中部電力さんに入っていただいて、大井川鐵道の復旧を早めたいというふうに思っておりますので、早々に検討会を立ち上げまして、なるべく早く、機関車トーマスが大井川の流域をポッポと走ってくれる日を一緒に実現していきたいと思っておりますから。私も同じように関心を持っているテーマでございます。ありがとうございました。

あ、1 つだけ。言ったかもしれませんけれども、東アジア文化都市のことです。

実はですね、去年の8月に永岡桂子文部科学大臣から、令和5年、つまり 2023 年、今年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで、静岡県が日本の文化の顔になってください、と頼まれました。

傍聴者4さん、どうしましょう。（傍聴者 4：ええ、ぜひぜひ）そうそう。それで同じように私も、はい、わかりましたと。どうしてですか、と聞いたら、ちょうど今年6月で、富士山が世界文化遺産になって 10 年目だと。私はその時（富士山世界遺産登録時）から、実は世界クラスのもの、例えば茶草場農法ですね、そうしたものを含めてずっとリストアップしていったら、現在 134 件あるんですよ。これは、金メダル銀メダルを取ったり、ノーベル賞を取ったりした、そういう人を含めて。世界クラスの地域資源と人材群が 134 件あります。

これはですね、富士山が世界遺産になったのが 2013 年の 6 月ですから、ちょうどそれから9年と7か月です。月数に直しますと、9年ですと 108 か月でしょ、7足すと 115 か月で、134 件の世界クラスです。1 か月に1件以上の世界クラスが降ってきてる。こんな県は世界中どこ探しても、日本はもちろんですけど、どこにもないので、日本の文化の顔になってほしいと。

この東アジア文化都市というんですけども、日中韓のそれぞれの国の１つの自治体が、その年の文化の顔になるんです。今年これで10年目なんですって。ところが誰も知らないんですよ。私も知らなかったです。だけどですね、そう頼まれた以上はしょうがないので、景色とか食文化とかスポーツとか、静岡県が持っているありとあらゆる、川根の文化の、盆踊りも含めてですけども、これを発信することが日本のためになる。そして、文部科学省の中核事業だというふうに永岡文科大臣が言っておられましたので、ですから我々は期待されてるんですよ。期待に応えようじゃありませんか。大井川鐵道も一緒に解決していきましょう。

ありがとうございました。